

第24号

会報こほく

滋賀県レイカディア大学同窓会湖北支部 発行責任者 桐畑 実 編集責任者 増田澄男

国体出場

グラウンドゴルフ

松岡純次氏続報



前号(会報23号)で紹介しました松岡純次氏(22期園芸学科)9月19日、9月20日と和歌山県で行われまして。国体に県代表として出場されました。その結果、滋賀県は46都道府県中7位に入賞しました。

大会は男女6名づつ、計12名で競技が行われ、うち上位10名の成績で順位が決定、松岡氏も見事入賞の荣誉に輝かれました。ここに報告させていただきます。今後の益々のご活躍と、地域、同窓会への御指導をよろしくお願ひします。

(桐畑)



第一六回本部GG大会

優勝 岩崎文松氏

9月17日

参加者154名

於・ドラゴンハット

当日は雨、ただ会場は屋内でありプレーには支障なく幸いしました。

湖北班の参加人員は25名として割り当て有、昨年の成績等考慮して参加者を募りました。全員の方には案内いたしておりませんがご了承願ひします。

湖北班の活躍目覚ましく好成績でありました。昨年も良かったことから湖北班の方のレベルが高いことだと思ひます。尚参加者の方には遠路参加していただきましてので湖北支部より五〇〇円補助させていただきます。

今後とも会員の皆さんにはいろんなスポーツを通じて健康維持増進に努めて頂き益々のご健勝を願っております。

上位入賞者(男子)

優勝 岩崎 文松(湖北)

二位 田中 直夫(湖北)

三位 佐々木豊治(湖東)

上位入賞者(女子)

優勝 川本 恭子(湖東)

二位 川部 寛子(湖北)

三位 前田 光代(湖北)

二七年度湖北支部

秋季グラウンドゴルフ大会

10月8日・参加者45名

於・浅井町

草野川河川敷コース

当日は快晴無風、最高のコンディションの中グラウンド・ゴルフに集中して大いに楽しんでいただけたことと思っております。

当グラウンドは芝コースと土コースがあり変化に富み面白いコース、ホールインワンするのも運が8分?だから面白いといえます。

グラウンドゴルフは個人プレーでありその点チームプレーのゲートボールとは違い、気楽にプレーできます。参加された方は和気あいあいの内に終了され、後ラッキー賞もあり喜んで頂けたと思っております。

会員各位のご協力ありがとうございました。

成績優秀者

優勝 吉永 清夫(北郷里)

準優勝 田中 直夫(坂田西)

三位 東野まつ恵(東黒田)

四位 岸本 四郎(神照)

五位 松岡 純次(息長)



成績優秀者

順位	氏名	地区	スコア	H 1
優勝	遠藤満代	(湖北)	47	3
準優勝	増谷綱一	(湖北)	47	2
3 位	菊池章三	(湖東)	48	3
4 位	山城利之	(湖東)	48	2
5 位	岩崎文松	(湖北)	49	3

二七年度 四支部親善グラウンド ゴルフフ大会

10月27日・参加者106名
於・長浜ドーム(長浜市田村町)

天気は雨模様でしたが幸いドーム球場のためプレーには支障なく競技は順調に実施できました。

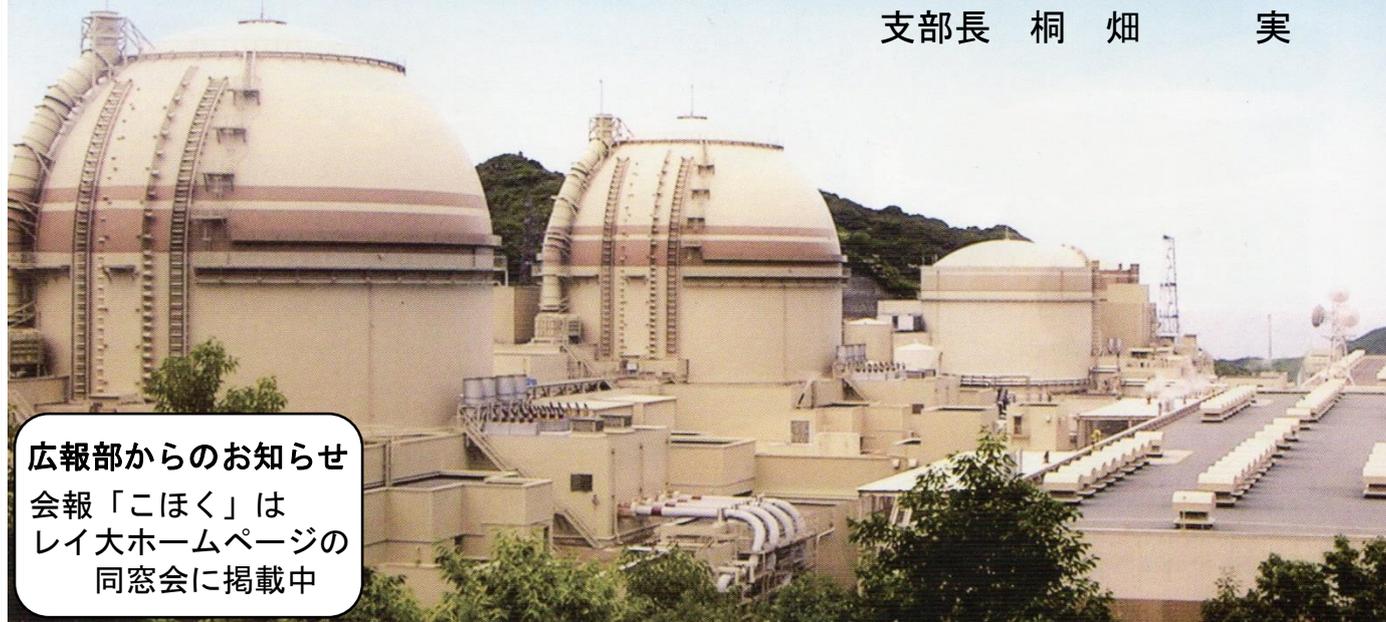
年1回の四支部親善GG大会、今回は湖北支部が担当することとなり長浜ドームで行いました。遠くからの参加者もあり早く終わることを念頭

に行いましたが参加される方も慣れてきておられスムーズに競技終了が出来ました。

各支部の交流も少しは出来たと思います。何はともあれ道中事故なく無事終了できたこと、ホットしたところですので改めて各支部のご協力に感謝しております。

大飯原発研修旅行を終えて

支部長 桐畑 実



広報部からのお知らせ
会報「こほく」は
レイ大ホームページの
同窓会に掲載中

今回、関西電力(株)大飯発電所を見学しました。35名参加(うち36期生4名)をいただきありがとうございました。

電力には、水力、火力、原子力、再生可能(太陽光、風力)等あり、先の東日本大震災では原子力発電所の不幸な事故あり、テレビ、新聞等で報道されていますが、私達遠くの事故であり、原子力発電所のこと、余り知らないのが現実だと思えます。私達の近く、福井県に数基あり、知りたい、知ってほしい、との考えより、関電滋賀支店様のご配慮により見学が実現しました。

事前に、参加者名簿提出し、構内に入る際的身分証明書(原本)持参見学許可され、沢山の人が携わっておられること、又数々の建屋、大型重機による工事続行中等を目の当たりにしました。

今回の見学が、原子力発電所の仕組み、どのように取り組みされているかを知る機会として研修の場となれば幸いです。

なお今回の研修 午前中、館内、構内での説明、又お帰りの節は自動車でバス停まで来られた方、多数と考え、終日休肝日としてご協力下さいましたこと感謝申し上げます。

(桐畑)



大飯原発 研修旅行に 参加して

28期 生活
岩崎 文松

この厳しい現状の日本を明るく元気にするには我々年代が生き活き「動く」ことが原点だと思います。まずは「仲間づくり・健康づくり」からと出会いと話し合いの場「日帰りの研修旅行」に参加致しました。

福島第二原発事故から約四年半、原発事故は人類の生存を脅かすと騒がれているが「原発の現物」を自分の目で見極めたいと思っており、これも丁度いいタイミングの参加要因です。

物静かな日本海に面した所に「御伽の国」に似たような大きなカプセル状の四個の原子炉格納容器を見てびっくり、この出力471万KWは関西電力全体の25%。そのものズバリの原発施設は見れないため原子炉格納容器内を実物1/3スケールの再現シアターで仕組みを学び、当然ながら「安全第一」対策をくどい程聞かされた。最後に場内を物々しい管理バス車中から見

大飯原発 見学研修 旅行記

35期 園芸
久保田幸雄

学、全体で約1時間半でしたが目に見えない原子力の偉大さを何となく理解出来たようです。

今回の研修旅行は少し堅苦しさもあり、終始楽しい雰囲気、十分な意味合いで「いい一日」でありました。これも幹事さんのお蔭と厚く感謝を申し上げます。

家から30分ほど歩いてバスに乗る集合場所へと向かう。木之本で全員が乗車してよいよ研修旅行が始まる。

同行して頂いている関電の社員の方から、電気を作るいろんな方式の得失のレクチャーをうける。それらを踏まえ、最も優れているのが原子力発電であることの念押しをされる。そして、最も強調されたのは、今日訪れる大飯原子力発電所は規制委員会の厳しい基準をクリアした安全な施設であるという点である。

関電の社員の自信に満ちた説明とは裏腹に、バスが敦賀

ジャンクションを過ぎ舞鶴道へ入ると「地元の皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません、おわびのしるしです。」と言わんばかりの建物が車窓から眼に飛び込んでくる。いよいよ到着。門はバリケードで守られ物々しい雰囲気である。無事入門。電発が停止中にも拘らず多くの人が働いている様子である。広大な敷地内に多くの建物がある。

この膨大な施設を停止させたままで良い訳がないとは、関電の社員のみなならず、多くの人が思うであろう。私もその一人である。発電所の見学でその思いは強くなった。発電所内でも安全性をより高めるために行っていることの説明を受ける。

が、しかし、どんな事故が起きても福島のような災害にはならないとはまだ確信は持てない。今、再稼働を進めても本当に大丈夫なのか。

頭の中が整理されない状態で昼食となる。アルコールを入れてこの悩ましい問題を忘れようとする期待をしたが、出てきた飲物はノンアルコールビール。この酔えない冷たい液体を流し込んだ私は、トイレへ走りこまねばならない始末となった。30分歩いたのは何のためだったか。

来年はどうかご配慮をお願いいたします。

奥びわ湖観光ボランティア

ガイド協会の一員として

30 期スポレク学科高 橋 静 子

ここ奥びわ湖には、豊かな自然と歴史の宝庫、伝説や伝承の豊富な魅力的な地域、温かい人々の暮らす町や村があり、広範囲に各種さまざまな分野を皆さんにご案内させて頂いています。

観音様、古墳、小谷城、虎御前山、山本山、賤ヶ岳古戦場、余呉湖、塩津海道、古い街並み等々・・・多くの方が「もう一度ゆっくり来てみたい」とお帰りになるそんな安らぎのある奥びわ湖の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい。日頃張っています。

歴史研究者、城郭研究者ではありませんから、難しい事は解りませんが、人々が誇りに今日まで延々と伝えてこられた心（その背景には、その時代の色々な事が隠されている）を、お客さんに感じてもらって頂ければと思います。話させて頂いております。幸いにも、県内を始め、東京、東北、中部、関西等全国各地からおいで頂き、リピータの方もおいで頂けるようになってきました。そんな会員の一人として J R ハイキング

レイ大卒業生聴講(米原校)開催

日 時	平成 28 年 1 月 28 日(木)午後 1 時～ 3 時
会 場	県立文化産業交流会館
テーマ	琵琶湖周航の歌～歌誕生の謎とロマン～
講 師	NHK 京都文化センター講師 飯田忠義
定 員	最大 30 人

聴講料無料 申し込みは担当幹事さんまで

の企画などをしながら、奥びわ湖の魅力を発信しております。奥びわ湖観光ボランティアガイド協会はまた誕生して 3 年ほどですがレイ大 O B の方も沢山おられます。今回はそんな皆さんの活躍を報告させて頂きました。是非皆さんも一度魅力いっぱい奥びわ湖へ足を運んでください。お待ちしております。

地域探訪

34 期園芸学科 梅 本 輝 夫

史跡北近江城館跡群下坂氏館跡 主屋、門保存修理事業見学

11 月 10 日(火)レイカ大同窓会 湖北支部の主催で下坂家屋敷群の見学会が開催され 13 名が参加し、約 3 年を要した修復の完了間近い屋敷群を中心に見学しました。

下坂氏は多くの古文書や遺物から足利幕府以前より続く中世の有力な国人領主であり、また京極家、浅井家とも深い繋がりがあったものの浅井家滅亡後は帰農することによって今日に至ったと考えられています。



今回見学した屋敷群は江戸中期(18 世紀前期)に建てられたもので現存する平地城館の中でもよく保存されたものとして平成 18 年に国の文化財に指定されています。



見学は長浜市文化財保護センターの二宮氏の案内で主屋と門および下坂家の菩提寺である不断光院を中心に行われました。特に損傷のひどかったヨシ屋根については県産ヨシを使った京都美山の職人さんによる見事な出来にみな感動しまし

た。屋敷全体の修復が今年度中には完成し公開される予定もあるようです。是非沢山の皆さんに見学いただければと思います。



訃報

謹んで哀悼の意を表し
心からご冥福を
お祈り申し上げます

21 期 文芸学科
前 田 勝 良 様
平成 27 年 11 月 7 日逝去

訃報の知らせは

桐畑まで

電話

〇七四九一八六一三三四